京城新聞

漫筆

不言生

余少年の時或る宣敎師の勸めに隨ひ基督敎を學ばんと欲して四福音書を繙きしに開卷第一基督の母マリア夫ヨセフと結婚せざる以前聖靈に感じて孕み居れりとの條に至りて疑惑の心生じて解けず之れを宣敎師に質すに師は曰く是れ基督の神の子たる所以なり又神は斯く自然法を超越してこそ神の神たる所以なれ奇蹟の奇蹟たる所以なれど余や更に首肯する能はず是れ科學の許さゞる野蠻の敎なり文明の敎義にあらずと思惟し爾來聖書を手にだにせざりき然るに近頃日本の神典たる古事記を見るに天照大御神は父君伊邪那岐大神の左の御目を洗ふ時になりませるとか或は右の御目を洗ふ時に月讀命なりませるとか或は御鼻を洗ふ時に建須佐之男命なりませるとか或は何或は何と容易に信を置く可からざること多し去つて佛典を見るに提婆論長阿含等には婆羅門は梵天の口より生れたり故に尊しとか或は法華經には彌陀は釋迦の口より生れたりとか或は大無量壽經には釋迦は母、摩耶の右脇より生れ誕生後直ちに立つて步行し天上天下唯我獨尊と云ひたるとか殆んど常識を以て解す可からざること多し依て思へらく由來宗敎は愚物の信仰すべきものにして苟も人生の意義を解し文明の智識を有するものには一顧の値ひなきものなりと速斷せり此速斷は偏へに以て我が齊絡を見るに疎漏にして宗敎の意義を解せざることを請ふ是れより懺悔の一端として愚見を開陳せん彼の佛典に云ふ婆羅門が梵天の口より生れたり故に尊しとは神話か譬喩か我れ知らずと雖も恐らく譬喩ならん凡て宗敎の宣布は多く口舌に依る婆羅門は宣敎の宣布者なればなり又た彌陀は佛口所生と云ふ所以は釋迦が海印三昧に入りし時彼れが胸中に炳現したる理想を阿彌陀經に口を極めて說きたる想像の彌陀にはあらざるか又釋迦が母摩耶の右脇より生れ出でたりと云ふ所以は陰部を直ちに指して美蕃登より生れたりとは少しく忌み憚る點あるより文章上脇を形容したるにはあらざるか脇にも右脇あり左脇あり何れの脇なるや我日本にて左を尊ぶに反し印度は右を尊ぶが故に釋迦を尊んで右脇より生れたりと云ひたるにはあらざるか其天上天下唯我獨尊と云ひたるは悉多が釋迦と生れたる時即ち三十成道の時にはあらざるか

神典の天照大神が父君伊邪那岐大神の左の目より所成とは決して生出にあらず其以前既に諾冊二神の未だ事戸を渡さざる時二神の愛に依つて生れ居り給ひしものが父君黃泉より歸り禊をなし左の御目を洗ひ給ふ時丁度名命したるものならむか其故は其後速須佐之男命が妣國根之堅州に罷からむと欲ひて哭くなりと云ふを見ても知らる可きなり

聖書の示す基督の母マリアが聖靈に感じて孕みたりと云ふは之れ古昔ヘブリュー人は斯る神話奇說を好む處より自然基督誕辰までに及びしものならむか例せば支那人が大を好み奇を好むより莊子は北溟に魚あり化して鳥となる其名を鵬と云ふ其幾千尺なるを知らずとか或は葉公龍を好む或日眞龍出つ葉公恐れて逃るとか由來龍なるものあることなし聖人既に曰く龍は德を以てして容を以てせずと云ひたるにも係らず今日の人は現實に眞龍あるかの如く思惟するものあるに至れり

大凡孰れの國にあつても科學の進步せざる未開時代には神怪不思議の神話多きを免れざるなり而て其神話は世界各國大抵一致することを看よヘブリウ人の創始說が日本の開闢說と類似したる如く又たカルデヤ人の傳說するイル神アナン神ベルス神ボアー神シン神サン神ウル神及木火土金水の五神を說くこと日本の天之御中主神より木火土金水の五星の神を說くと何ぞ夫れ相似たるや又希臘の傳說にアポロインの神の子オルフエウスが其女神たるエブルユチケーを慕ふて黃泉の國に到り其妻を現世に連れ歸らんとしたれども夫に不實の行ひあつて黃泉の醜女に殺されたりとの神話は偶然にも何ぞ我日本の古事記の示す伊邪那岐神が伊邪那美神を黃泉に迎ひに行き給ひたると相似たるの甚だしきや其他天照大御神は女神に在しまし給ふに能く武裝致さま給ふ希臘の女神アデナー雄々しき姿と暗合したる如き彼此大同小異なり之れを要するに宗敎は未開時代の遺產物なり隨つて未開時代の說を混入するは當然のことなり未開の說は科學の時代文明の今日には適合せざるなり請ふ之れが宣布に從事するもの〻枝葉の細末に汲々たらんよりは蓋し宗敎の本義に反つて愛と慈悲とに努められむことを

讀者小品

●日曜日

半日漁夫

浪人の身にはとりわけて休日はなきもの〻今日は日曜と云へば何になく心安かなるもをかし、ふと友人許れさなへはこ〻に世を拗ねたらん如き八字髭二三輩あつて吾等の一行に加はれどすゝむ、未だ其何にたるを聞かざれども別によふしなき身さて直に同意を表しぬ、これ他なし瓢を腰に竿を肩に釣を漢江に試みんとはするなれ、今日は殊更に電車をも謝して、徐に步を龍山の方に運ぶゆく〳〵駄法螺を吹き顧みて相笑ふ裡餘の行程はいつしか談笑の間に盡きて江上の清風は快よく一行を迎へたり、黃塵百丈の巷に、さまよへる身は恰も仙境に遊ぶの思ひあらしめ、各快哉を叫ぶ、腰なる瓢は已にひもとかれて乃公の前に端坐せり一行先づ瓢に向ひ挨拶を試みて、割愛一番意の溜る處を縱にして糸を垂る、この日天氣晴朗水波起らず最も釣に適せり各々竿に懸して獲るところあるもの〻如し、されども予の如き經驗乏しき者は少時にして神倦み氣疲る、故に相呼應して中止を議す、同人等又異議あるなし再び堤上に一閣をつくり快談醉を買ふ各々獲る處を驗し且つ評し且つ與し意氣大に昂る一行の得意想ふべし、既にして日は西に傾きぬ相携へて醉步蹣跚家路を辿りぬ

浮世ぐさ

●斬髮の始

又明治三四年の頃迄東京日本橋小傳馬町に病める四人ありければ之を擔ぎて淺草の溜所に送りしに其の擔夫の頭髮は五分刈にして所謂願人坊主なりければ五分刈の頭容は爾來都人の嫌ふ所となれり、然れども一方には洋學者の斬髮を好むあり、又一方には橫濱にて外人に接する商人が追々洋風を便とする風を生じたれば從來願人頭を嫌ひし都人も漸く斬髮するに至れり、今三十一年八月の時事新報に斬髮當初の狀況を說きたる記事あれば參考迄に其の要點を揭げん「異國船の橫濱碇泊の港に入り來らんか、我が髮結師は各々一挺の剃刀を携へて船中に入り乘組人の顏を剃りて意外の儲けに有り附きしは、散髮流行前のことなりし、中にも橫濱の髮結小倉某、原德之介、松本貞吉、竹原五郎吉といへるもの〻如きは何れの日か日本にも散髮の流行すべきを思ひ、今の中に剪刀の使ひ方を覺ねんと、頻りに異國船に出入して、西洋理髮師の手前を見習ひ稍や得る所ありし、然るに追々チョン髷に暇を出す人を生じ來りたれば、彼等は時機至れりだなし小倉某卒先して明治一二年の交今の橫濱の百四[illegible]番館、即ち俗稱支那屋敷に散髮店を[illegible]神奈川縣廳に出願して理髮營業鑑札四十八枚を受け、松本、竹原等と腕を揃へて專ら西洋風の散髮を始めたり、此れ橫濱に於ける日本人散髮營業者の開祖なり、勿論當時は來客は多くは西洋人にして月極め一人前銀十五枚位づゝ申し受けたりしが其の賣店の飾り付けは至つて粗末なりしなり

●酒專賣

落語 紅毛子

藝妓が官業にな[illegible]ら、宿屋が官業になつたらと云ふ、斯[illegible]あらう歟のれ話はもう出來て居ります[illegible]ですから、又官營のれ噂も、些と智慧[illegible]び譯で、併し此頭酒の專賣が始まると[illegible]では、遠慮は不法沙見逃すのも殘念[illegible]から、古いは承知で一席の附會を申し[illegible]或は政府の御機嫌に際るかも知れ[illegible]れが其處は所謂根なし菜なしのれ笑草[illegible]々しくも他愛のない處で何分ども[illegible]流しを願ひます。酒は百藥の長[illegible]拂ふ玉箒などゝ好きな者には持つて來[illegible]能書が昔より歷然とありまして幾ら禁[illegible]などが起つてもなかなか以て容易な事[illegible]諦中が殖ねません其の癖醉醒の水の味[illegible]戸知らずなど〻太平樂を並べるやうに好きになつては酒も百毒の長身上を叩く玉帚で身の爲め家の爲めに碌な事はありませんから是れは何んでも眼のくり球の飛出る程に高くして飲扱を減らすに限る 甲「何うだら非常に價格を上げて濁酒一升三圓、清酒一升十圓を最下等にしては 乙「一升十圓一合一圓だなそれは馬鹿々々しく安いぢやないか」甲「それでも吾輩等の宴會の時會費が餘り高くなるで不都合だ」乙「ウム幾分か其理もあるでは今のくらゐに極めて置かうわれ〳〵ある爲めに人民も際どい處で助かつとる仕合せな奴等ぢや好い面の皮で…………、先ア斯樣な譯で日本酒だらうが洋酒だらうが酒といふ酒は悉く官營になつて了ひましたから直段が高くなつたばかりでない賣買も以前とは悉皆樣子が變りました 男「今日は御用はありませんか」ナエ久しくれ取りにならないぢやありませんか國益の爲めに今日あたりは五ン兵衛はかり如何です何アに飲酒家を減らすのが目的だからつて買る以上は買ふ人が無くつては困りますよ暇だつた日にはわれ〳〵集配人がれ役御免要らない屋員だと云ふ事になつて了ひます李「エ二圓で最下等を二合先ア好いられでも御註文のないには增しですや有難う」ブツ〳〵ブツ〳〵とヘルの制服を着た酒類集配人が自働車を飛ばして先から先を廻つて步くと云ふ大掛りられでも一體が叮嚀です專賣局で規定した個條書の中にも人民に接する者は成るべく如才なくし決して貴樣其方等の語を用ふ可からず云々とあるので誠に是れは結構な事で御坐います

李兵工「何うだ伊三公、鼠の錢の錢は下つたか」伊三郎「大家さん又聞きに來なすつたかい」李「またも股も無ね足の摺木になるまで聞きに來るよ受取つたかい、エ、何うしたい」伊「煩はせるど氣の毒だから、それぢやア安心さして上げるが今受取つて歸つて來た處さ」李「然うだらう外からやつて來た溝板の足音が何うも獨身者の步き方ぢや無かつたからな適切然うと見極めを付けて來たんだ」伊「雨漏や敷居の直しを話す時には素敵に遠い耳だがな」李「それが地獄耳と云ふ奴での今時の若い奴等とは些と出來が違はうと云ふものだ」伊「それが自慢になるものか」李「そんな事は何うでも好い、三百圓當つた一割の奢りは何うする」伊「それは約束だから奢るども何んの三十圓ばかりの端た錢」李「直ぐそれだ、そんな料簡だから三十近くなつて女房も持たずに」伊「こんな穢ね長屋に居る歟」李「又毒口を利きやアがら、だが淡泊した好い氣ッ賦の男よ」伊「家賃の溜つた時も家主たるべき者は然うありたい」李「戰場の儀は是非なした、己は家賃を取るのが商賣だ」伊「己は奢るのが商賣ぢや無ね」李「つべこべと無駄を云はねえで約束は何うする氣だ早く聞かせなナ」伊「氣ッ賦の好い伊三さんだアねソレこれが家賃の溜つた三ッ分これが先半年の前家賃好しかチ」○」フム」伊「處で今まで種々世話になつたれ禮に中等二十圓と云ふ奴を一ト升奮發して角の賣下所へ賴んで來た」李「エ一升本當か」伊「本當とも、斯樣な泡錢の入つた時にでも取らねわちや一升は儲置き五合桝の顏だつてこれから一生見られやしねえ」李「ウムそりやア全くだ己も然う思つたから總後架の手洗水を入れといた五合桝をチャンと新聞紙を包んで葛籠の中へ入れて置いた中から上と來た日には一合爆に手を着けるだけでも一期の浮沈だ」伊「だから一生の飲み納めに一ト升と奮つたのさ」李「洒落か」伊「エ、何んだソレどころか官營以來半年振りでの御對面かと思ふと何んだか斯う嬉しくつて胸がドキ〳〵して洒落つ氣なんぞは段々無くなるのさもう酒の來る時間が切迫して來た[illegible]行儀い店子は持つべきものだ匂ひだけでも早く嗅いで見てえ」伊「だからさ賣下所の前は飲酒家は決して通らねえ匂ひがしても平氣ならおな奴は馬車や自働車で車道を駈けて通つて了ふ」李「ソレは今更いつても仕方がないだ、が長屋のものが羨ましがるだらうな」伊「大丈夫平生から女房さん達に世話になるから長屋中へはそばの大盤振舞しか手酒に濁ねて居る亭主連には粕漬の古粕の拂ひ下げになつた奴を百目づゝ配る事にした」李「行渡つたものだな伊三さん」伊「氣障だ千。ソノさんは御免蒙りませう」李「ソウですチ二十圓を二人して一升、ね、ソレを飲めば冥士の土產になる十圓の外に肴迄奢られるのかと思ふて流石の己も何んだか斯う勿体ないやうな氣がする」伊「ソレぢやア今出した屋賃は負けて下さい」

元老の凋落

京城新聞

●●●●●伊藤公掉尾の功績●●●●●

元老中最も強健なりと云はれたる井上老侯の病勢益々重態なりと聞くや、世は其人を知るも知らざるも爽和精悍なる明治の巨人として只管に其回復を祈れり、然れども其齢の高き既に七十四歳と聞き或は回復の望なきかを思ふては何人と雖も轉た人生の無情を感ぜざるを得ず、井上老侯の重態にして回復の覺束なきを見て、最も痛切に無情を感ずるものは伊藤公なるべし、聞多俊介時代松下村塾に於て、禁を犯して横濱より潜かに乗船して渡歐したる時に於て、歸來築地の梁山伯に於て共に急進政策を獻したる時に於て、侯が外務大臣となりて條約改正の爲に急激なる歐化政策を採りし時に於て、兩人は常に一身同体の如く極て親密なる同行者なりき、若し夫れ彼等が片田舎の田夫野人に終るものならば、大山参詣富士登山にも笠棒の揃にて必ず同行二人と宿帳に記さるべき最も因緣深き朋友なり、晩年に於ける兩人の政治意見は漸次差異を生じ急進を喜ぶ侯は稍々保守に傾き、保守的傾向ありし伊藤公は急進に傾き政黨の首領となり、伊藤公の政見は却て大隈伯に接近せり、如斯にして政見に於ては兩人の間面白からざる事ありしも、其情交に於ては敢て異る處なかりき、今や無二の老いの道連れが危篤に瀕せる枕頭に坐す、必ずや萬感交々起り、平生の虚榮心も去り、英雄的倨傲心も忘れ清淨無垢の伊藤博文となりて自然力の强大なる人間の微力にして、人生の果敢なきを歎じ、不思議目の禁ず可らざるものあらん、此感の起ると共に元老凋落の念は想起せらるべし、之れ獨り公の感想のみならず、井上侯の重態を聞くと共に國民も亦た元老凋落に想及するなり。

元老凋落——果して何を意味する乎、世は元老なるものを以て厄介なる一塊團となす傾向なき乎、元老の差出口は内閣の上亦一の内閣あるが如くに感ずるものなき乎、世は元老の跋扈よりも元老の凋落を望むの傾向あらざる乎、而して元老の勢力は全く伊藤、山縣、井上の三元老にあり、殊に井上老侯の財政上に於ける勢力は强大にして特別大藏大臣たるの觀あり、伊藤、山縣に至りては特別總理大臣の觀あるに非ざる乎、此三元老の承認なければ何人が起つと雖も内閣を組織する能はざるに非ずや、今や勢力ある井上老侯の大患に依りて、伊藤公が深く人生の無情を識得し意氣衰へるとせば山縣公亦此數に漏れじ、元老團の凋落推して知るべき耳、新陳代謝は宇宙の常理なり、公が如何に健幹にして氣豪なりと雖も自然の力には勝つ可らず、然らば其餘命知るべきのみ、老友の危篤に遭ふて蜉蝣の如き人生を贏得せられしならば、平生の虚榮心と倨傲の念を去り、長白山頭埋骨の如き詩的虚榮の言を發することなく、極て眞面目に帝國の對韓政策を速に成就し、公が掉尾の功績は崇嚴なる色彩を發輝すべきなり、今は既に其時に非ざる乎、余輩は元老の凋落を感想すると共に併て公が掉尾の功を完ふせんことを望むの情を禁ずる能はず、

●漢城便り

▲曾禰副統監が屬僚を率ゐて下仁せられ仁川港灣を視察し其上在留民の開催せる歡迎會に臨まれたりとて、井は偶發の出來事にして民長官選問題には聊かも關係無之と存候、聞く仁川の築港には一千萬圓の巨費を要すと此以上は多く言ふを須ゐず候、

▲世に恐るべく厭ふべきは擔負の引倒しに有之候御用通信者は副統監の下仁を以て官選問題に關係あるもの〻如く想像し仁川居留民を誣ゆるに官選令に贊成したりとなし恐にも附かぬ通信を内地に送りて爲政者と國民とを誤らんと致居候奴輩の爲す所素より歯牙に掛くるに足らずと雖も爲政者の爲には斯る御用通信者は獅子身中の蟲と可申者に御座候、

▲監獄問題は本來社會問題の一部に有之候而れども韓國の現狀に於ては慥かに政治問題の一として取扱はれべきものと存候余輩が禿筆を驅りて特に本問題を論議する所以の者は如何にかして保護政治に欠點なからしめんとの存念に外ならず候、

▲從來の慣例に因れば韓國監獄に於ては罪囚充滿すれば隨時特赦を行ひたるもの〻由に御座候之か爲監房の狹隘も經費の不足も余り問題とならずして濟みたるもの〻由に御座候、保護政治の時代となりては遙かに韓式特赦を無暗に行ふ能はず從て今回の監獄改良問題を引起したるものに御座候、

▲此頃内地に於ては女優熱中々に盛なりと御座候特に教育ある良家の子女にして女優を希望する者中々に多しとの事に御座候出雲の於國が歌舞伎の元祖とすれば女優の蒙出は斯道の復古と見做すべきものと存候、

▲良家の子女が俳優になればとて何も不思議は無之候記者は寧ろ世の教育ある亦可成なる容色を有する婦女子が單に生活の必要上一生痴漢を乘せて走るの何の意たるを不思議とするものに御座候女子の解放は世界の大勢に有之候女優は解放の副産物に有之候、

東京電報

▲井侯依然危篤

井上侯の容態は依然危險の域を脱せず家人も到底恢復せざるものと信ぜり（六日發）

▲拓殖委員任命

東洋拓殖株式會社創立委員は十三日任命十五日發布の筈

▲大演習招待

特別大演習に付參謀本部は陸軍大臣を經英、獨、佛、米、墺、露、伊、清等に招待狀を發し各國より多數の參觀ある筈

▲井上侯の容態

青山博士昨夜井上侯を見舞ひし結果格別の變化なく尚危險の恐れありと云へり（以上七日發）

雜報

●曾禰副統監の訓示

●●●●●拓殖會社韓人委員に對し●●●●●

曾禰副統監は昨一日午前十時東洋拓殖株式會社韓國側創立委員三十三名を統監府副統監室に召集し趙農相、石塚總務長官代理、中村農商工部農務局長、國分統監府書記官、川上農商工部書記官等列席の上大要左の意味の訓示をなせり

東洋拓殖株式會社の創立委員たる諸君と茲に會見するを得たるは余の甚だ悦ぶ所なり諸君は同會社の韓國側を代表する委員なれば一致協力して豫め各自の意見を纏め以て其の委員たるの信頼を博し其の任務を全ふせられん事を希望す渡日後は充分能く文明の事物を視察し歸來各自地方民に對して充分說明せらるべし終りに今や氣候の變目に方り長途の旅行をなす事なれば切に衛生上の注意を加へられん事を望む云々

●拓殖委員の總理邸參集

昨日午前十一時李總理大臣は東洋拓殖株式會社創立委員三十三名を自邸に召集し一場の訓示をなせり其の要領左の如し

諸君が今回拓殖會社創立委員として渡日するは其の委員たる任務を全ふするさ共に日本の實狀を視察するの好機會を得たるものなり百聞は一見に如かずと云ふを以て諸君は文明開化の先進國たる日本に渡航し充分に其の文物制度殖産等を見聞して能く此れを咀嚼し歸來韓國の發達に資益する所あらん事を希望す詳細なる事は主管大臣なる趙農相より充分の教を受けられたし云々

●趙農相の訓示

曾禰副統監及び李首相の訓示を受けたる東洋拓殖株式會社創立委員三十三名は正午農商工部に參集し昨日發布せられたる勅令の規定に從ひ各委員馬關より東京に到る鐵道沿線地方の農業及び農工業に關する一般狀況を印刷せるもの各一冊及び六百圓宛の旅費並に各地方よりの來京旅費（遠近に應じ百圓五十圓三十圓の別あり）の支給を受け終りて趙農相より一場の訓示演說ありたり其の概要左の如し

諸君は副統監閣下並に總理大臣閣下の訓示を能く服膺し韓國委員たるの名に背かざらん樣注意あらん事を望む今諸君に渡したる鐵道沿線地方案内に指示せる如く諸君は車窓より日本國の開化と其殷富なる事とを見ば大いに得る處あるべしと信ず諸君は韓人の希望さ日本人の期待さを空しくせざる樣能く各自の任務を盡して其の使命を全ふせられん事を切望す云々

●拓殖委員一行の出發

東洋拓殖株式會社韓國側委員三十三名は既報の如く川上内山兩氏に引率され愈々本日午前八時三十分南大門驛發列車にて渡日の途に上る一行は馬關（山陽ホテル）大阪[illegible]

●衛生事務演習會

内部警務局は本月十一日より向十日間元山、釜山、馬山浦、木浦、群山、仁川、鎭南浦、新義州、平壤、大邱の各警察署より警部又は巡査を一名宛及び警視廳より數名を召集し實地衛生事務演習會を開く會長は藤田軍醫部長として與賀技師其の他數官となる筈なり

●東京日日と仁川議員

昨日着東京日日新聞京城電報欄に民長官選令に對し仁川議員は曾禰副統監に會見し同令の發布理由の說明を受けたる結果官選令に反對する理由を認めずと公言せりとの記事ありたるに對し仁川足立議長は右は事實揑造の電文にして仁川議員はかゝる公言をなしたることなしと打消せり

●虛僞の通信

在當地の御用通信員某は民長官選問題に關し仁川民團議員が官選に贊成したりとか在韓邦人の輿論は官選に反對せずとか種々虛僞の通信を内地に送りて爲政者及び世人を瞞着せんと試み居るに付同人の行動は目下或向の問題となり居れりと云ふ

●記者倶樂部の設置

在京各新聞通信記者倶樂部創立に就ては既報の如く一昨日午前十時より京城日本人商業會議所樓上に於て協議會を催したり列席者は大韓、朝鮮日日、朝鮮タイムス、京城日報、ソウルプレス及び本社の各新聞記者大坂毎日、大阪朝日、報知、帝國等の各通信員等十八名にて種々協議の末記者倶樂部を設置することに決し一同晝餐を喫し恭將棋其他の雜談をなし一同散會したるは午後四時頃なりし尚ほ幹事は抽籤にて定め本月より十月迄の幹事は本社之れに當れり

●海賊討伐協議

第二水雷艇第三十二、三十三、三十六號の三艇は去る五日仁川に入港したるとは別項既報の如くなるが昨日午前各艇長及生野司令上陸仁川理事廳を訪問し海賊討伐の方針につき協議したり

●千早艦の入港

去る一日仁川を拔錨し東方面に遊弋中なりし千早艦は別項三水雷艇と打合せの上更に東方面へ行動する爲め昨日入港したる筈

●水雷艇隊入港

第二水雷艇第三十二號、三十三號、三十六號の三水雷艇は第十二艇隊兼第十三艇隊司令生野少佐の指揮の下に去る三日竹敷を拔錨し鎭海灣及隔音島に一泊の上五日午後五時仁川に入港したり

●憲兵補助

駐韓各地に於ける憲兵上等兵の下士進級の結果上等兵の欠員を生じたる爲め今回百三十九名下士以下の補充あり來る十二日頃仁川に到着すべし

●補助憲兵の採用

憲兵補助員五十名を志願者より体格檢査學術試驗に合格したる者より部に採用することゝなりたるが會寧方面の保護に任ずべく是にて補充憲兵全部は充實せしものなりと云ふ

●憲兵本部移轉計畫

憲兵本部にては現在の廳舍にては狹隘にて執務上不便尠からざるを以て軍司令部構内幕僚官舍内部に少しく修繕を加へ別に附屬倉庫をも新築して移轉するの計畫あり

●憲兵分隊新築計畫

京城憲兵分隊は兼て適當の場所に新築するの計畫ありしが今回郵便局右側なる五十一聯隊官舍跡を選定し新築する筈なりと

●副統監の晩餐會

曾禰副統監は今回海軍省に轉任せられたる岩崎海軍少將送別の爲め本日午後七時より統監官邸に於て晩餐會を催し長谷川大將各部次官參與官駐劄軍參謀長各部隊長統監府高等官二十餘名を招待せらるべしと

●仁川の副統監歡迎會

再昨日午後七時より山樓に於て仁川官民の曾禰副統監以下の歡迎會を催されたるが席上富田民長の歡迎の辭ありたるに對し副統監には「今回諸君の斡旋により仁川を見物したるは感謝の外なし予も仁川の將來に於いて相當の盡力せん云々」と答辭を述べ一同宴に移り散會せしは十一時過頃なり

●各官衙の下金に就て

京城日本人商業會議所より統監府及び通信管理局其他度支部警視廳等に宛て下金の件に就て陳情書を呈したることは既報の通りなるが統監府及び通信管理局にては其陳情を容れ從前より二十日間も早く下附することゝせしも度支部にては依然として舊態の儘なるを以て我商工業者は一般に不便を感じつゝあるが當局者は此邊の事情を察し舊態を改められたきものなり

●清國人と通關業者

仁川に於ける通關業者二十名は審議の結果終に全部同稅關に保證金千圓を納入して許可を受け目下貨物取扱入規則に拘束せられて營業を繼續し居るに反し支那通關業者は何等の制裁を受けず隨意其の營業を繼續し居るを以て同業者は稅關の措置に對して盛んに非難を加へ居たるが同稅關にては漸やく此頃に至り支那通關業者の内部及之れが取締法の調査研究に着手したりと云ふ

●大阪貿易商の恐慌

大阪に於ける韓國貿易商は一昨年來日韓貿易不振の打擊を受け破產に瀕しつゝ辛くも支へ來りしもの多きが今回同地西區北堀江二丁目吉田貞四郎、鎭南通三丁目竹田要藏の兩韓國貿易商店は遂に破產の運命に逢ひ目下專ら整理中なりと同地通信に見ゆ

●學校聯合運動會

京城民團立高等女學校各小學校秋季聯合運動會は訓練院に於て來る廿七日盛大に擧行せらるゝ由

●●●●●鶴原氏令嬢の結婚●●●●●

鶴原統監府總務長官令嬢[illegible]子は今回[illegible]氏と婚約成り來る十七日東京に於て華燭の典を擧ぐる由

●●●●●曾禰副統監の歸京●●●●●

曾禰副統監一行は前項舟遊會を終り午後九時五十分仁川驛發の終列車にて信夫理事官富田民長以下官民數十名の見送を受け同十二時歸京されたり

●副統監の寄附

五日下仁視察を遂げたる曾禰副統監には仁川小學校基金へ二百圓、仁川病院衛生費へ百圓、幼稚園へ五十圓及太神宮參拜の折玉串料として金九圓を寄附せらる

●金議長の歸國

韓皇太子奉伺の爲め伊藤統監と同行日本に赴きたる中樞院議長金允植氏は一昨日午前八時三十分南大門着直ちに入京せり

●●●岩崎少將歸朝●●●　海軍省に轉任したる岩崎統監府附武官は明日午後十時四十分南大門發にて歸朝の途に就くべし

●●●富士田取締役●●●　五十八銀行の富士田氏は過日來滯京中の處一昨日歸阪の途に就く

●●●藤田議一氏●●●　藤田合名會社々長藤田議一氏は一昨日午前八時四十分南大門發急行列車にて歸朝せられたり

●●●川上法學士●●●　川上邦達氏は過日來京日韓印刷株式會社へ副支配人として入社せられたり

●●●渡邊内部事務官の歸任●●●　夏期休暇を得て東京に歸省中なりし渡邊内部事務官は一昨夜歸任せり

●●●藤波通譯官●●●　金議長と同行せる藤波統監府通譯官は一昨日夜歸任せり

●●●特許審査官着任●●●　統監府特許局審査官安藤格氏は六日審査官補神尾太次平、山中榮吉の兩氏は一昨日着任せり

●●●警備電話開通●●●　平壤成川間に架設中の同電話は本月四日より開通せり

●●●補助憲兵服の到着●●●　兼て日本政府に依賴せし補助憲兵正服は二三日の內憲兵本部へ到着すべく直に各地補助憲兵に支給すと

公人私人

▲片野誠太郎（全州騎兵隊長少佐）五日入京浦尾旅館

▲東條彌太郎（馬山郵便局長）同上

▲柴田虎太郎（鎭南浦農工銀行支配人）五日入京山本旅館

▲富士田卯之助（五十八銀行取締役）六日出發

▲佐藤六平（竹敷要港第十二艇隊附中尉）六日入京天眞樓

▲齋藤命祐（度支部參政官）同上

●近事片々

▲漢城●●政界は伊藤公歸任の報に依りて多少活氣づける形勢あり、果して然るや否や

▲大内●●棚瀬の兩代議士は曾禰副統監に面して民長官選に就て談ずる所あり結果好良

▲撤廢●●難事ならば無期延期すべしとの議案に對し稍首肯せるも確答は統監歸任の上

▲東京●●に於ても民長官選問題は大分世の注意を惹きて政友大同倶樂部共に贊同せる[illegible]の議會に[illegible]撤廢案を提出するの形勢となれり大分面黒くなり來れり

▲某代●●議士伊藤公に面して形勢を聞る公も意外の思ひあり少々面喰ひの趣ありしと

▲公も●●斯く輿論が之に反對ならば強て執行するの意なしと云はるとは果して眞實乎

▲伊公●●も斯迄大問題たるに至るとは全く思はざりしならん或は意外の感あるべき也

▲形勢●●斯の如くなれば伊公歸任の上は或は撤廢せらるゝやも知る可らず趣何甚佳也

▲東拓●●委員三十三名將に本日を以て東上せらる是にて一段落は付きたり先づ結構也

▲仁川●●は副統監の下仁にて大分賑かなりし秋田先生大に得意なりとは果して眞實乎

▲民長●●問題甚だ煮へ切らざる模樣なるも形勢斯の如くなれば其中には解決すべし

▲釜山●●は近海に於ける秋漁盛にして市况活へるが如し鰮漁の前途も甚だ好良なりと

▲政治●●問題には何時も冷淡の傾あり民長問題の如き所謂愼重の態度にて更に振はず

▲平壤●●は大庭新民長の温和圓滿なる居留民との折合よく李觀察使亦人望ありと云ふ

▲近時●●特筆すべき快事なし去四日砲手負傷して午砲鳴らざる事あり余りドンな事也

▲大邱●●は久水理事官の妻君氣餘談は些と面黑し久水夫人由來辯に雄也或は手も利乎

▲管て●●仁川に木浦に花唇を鼓して婦人界に流水的辯を揮はる今又大邱に之を聽く乎

▲鎭南●●浦は京城日報社長大岡先生と佐久間書伯の下向にて大に持て居るとの事なり

▲築港●●は秋元理事官の斡旋にて好都合に運び居るとの事經費百萬圓を要すと大事業

▲群山●●江景地方は米作豐饒の見込にて人氣大に引立ち諸種の取引は意外に活氣有と

▲木浦●●も同樣にて例年に比して韓人取引甚だ好況南韓一帶は漸次好景を呈し來らん

▲元山●●漁業好況にして活氣を呈し來る北韓の要港北日本との航路開通は最も急務也

▲亞刺●●比亞メッカとメシナ間の鐵道開通せりマホメット墓地縣の生地燦爛に煙らむ

▲埃及●●國民黨は憲法制度の諸題を土耳古帝へ電報にて上奏せりと憲法流行の時代也

●美人編輯局に舞込む
▲白蓮花の記事に就て

時は維れ九月の五日午後五點頭を過ぐる頃年齒ほうら若き洋裝の美人洋犬を引きつゝ編輯局を訪へるものありと告げ來る、何事の用事ぞと尋ねれば我が新聞記事に就てなりと然らば面會すべしと案内せしむれば軈て美人は靜に階壇を上り來る、成程洋裝の美人其擧措の鄭淑なる良家の令孃とも思はるゝや芳紀は將さに廿二三か、霧を欺く斗りに色白く、眼もと口許の[illegible]得も云はれぬ愛嬌[illegible]如くに思はしむ、之れ果して何者ぞや、良家の淑女たる者が突然新聞社の編輯局に訪ひ來るの勇ある乎、さても疑問、記者は斯く思ひつゝまづ其來意を問いぬ、果然花唇は開かれたり、而も優婉に何者にか耻るが如くいと微かなる聲にて、「妾は菅野と申ます過日來貴社の新聞に揭げられたる白蓮花及其他の記事に妾のことに似寄りの事ありされども皆事實が相違して居りますこれ等の記事に若し間違ひありとすれば其責任は何誰に歸するものなるにや」と、記者は簡單に答て曰く、「記事の責任は編輯人にあり」と其時美人は微笑して說き出すやう、「斯る記事を揭げられては甚だ迷惑致します、何づれよりお探ぐりになりましたか存じませぬか、丸で事實になきこと計り多く若し國元にでも知れるときは容易ならざる事となります聞くも忌はしき韓人に關係ありとか或程韓人には知る人ありて夫等の世話にて敎育に從事し居る決して肉躰の關係杯は更になく何卒事實をれ聞取りの上御取消を願度」と、喃々として說かんとする模樣なれば記者は之を遮りて曰く、來歷を今茲に拜聽するの時間を有せず卿が用事の要領を聞きたし、若し夫れ記事に相違あるに依り取消せとの事なれば开は斷じて應じ難し、卿に於て事實相違ありと認むれば其相違の廉を指摘して正誤を申込まれば、左すればこを揭載すべしと告ぐれば、美人恰も失望せるが如く、怨むが如く記者の顏を眺めて稍々考ふるものゝ如くなりしが、軈て心に決する所やありけん、婉然として辭し去りぬ、茲に於て始て洋裝美人の本体は了解せられたり、之ぞ白蓮花として本紙に揭げたる菅野孃にてありける乎、記者は白蓮花の主人たるを知るに於て一種の感に打たれたり「此聲でとかげ喰ふか」の時鳥がとかげを喰ふに比するの俳諧に聯想せざるを得ざりき、何が故に此俳諧に聯想せしかは記者として尋ね可らず、只何となく斯く感じたるのみ、同時に亦た火を覗ひつゝ寄る夏虫、雉子も鳴かずば打たれぬの諺にも想到せり、果して記事の相違なる乎、果して此美人は清淨無垢の淑女なる乎、敎育に熱心從事せる女性が紅粉に身を窶し、美裝して韓人等と交際する必要ある乎、此美人は果して專心敎育に從事しつゝあるか(つゞく)

●清國人を混せる暴徒

忠淸南道扶餘郡邑にては去月二十七日は韓皇帝即位紀念日に相當せしことゝて邑内の有志者之を祝せんとて同地の兩班樓金寅方に集り祝賀會を開きたれば在留の本邦官民は何れも招きに依り之れに列し大に愉快を盡し夜に入り將さに宴を撤せんとする時郡内恩山の北方なる琴江里に賊一團闖入し牛を屠りて食しつゝありとの飛報達したれば祝賀會に列席したる憲兵巡査は直ちに席を辭し[illegible]討伐の準備をなし一先づ邑の對岸窺岩里の上方なる向江に集合して部署を定め一隊十二名午後十二時過恩山指して進發し二里半も進行せしに黑白も分ぬ暗夜のことゝて道を失し方向に迷ひしも漸く村落のあるを見出したれば里長に聞かんと一民家に就て尋ねたるに一人のチョンガー出で來り此地は方生面のサイゼイと云ふ所なり自分は里長の子にして里長は此下の自宅にありとて一行を案内して其門外に至り里長々々と叫びたる言語擧動の何となく怪しきを以て一巡査は此奴胡亂なりと其身体に觸れ見たるに少からざる金錢を所持し居りしを以て早速取押へんとしたる一刹那屋内より一行を目掛けて盛んに射擊を初めたればチョンガー此のドサクサに乘り何處ともなく逃げ失せたり扨ては賊の見張りなりしかと直ちに前面の畑中に散開して應戰したれば賊は之れに辟易し逃走せんとするの狀を呈したれば一行は直に突擊を行ひ賊三名を捕へたり賊は此突擊を受け遂に四個の死体と火繩銃十二、弓三張、日本服四點及び雜品多數を遺棄し暗夜に乘じて何れへか潰走したり此賊數は五六十名にて首魁吳陽善の率ふる一團なりしと賊の遺棄せし屍体を撿せしに王某と名くる淸國人ありしが尙他に、名の淸人加はり居れりと一行は斯くて捕虜と鹵獲品とを携へて二十八日早朝無事扶餘に凱旋せりと

●渡船の覆沒
錦江上流の渡船場の出來事行衛不明者數名

去月三十日午前十一時淸州郡西江內一下面浮灘里津地內(錦江上流)に設置せる淸州鳥致院間の渡船場に於て淸州より鳥致院に通行する男女三十餘名を搭乘して渡航中當日は數日來降雨のため平水より約四尺の增水ありしが船の該川の中央に至る頃船底より浸水する事甚しく乘組員は必死となりて此れが排水に努めたるも元々船体の朽損し居りたるため船底の一部破損し直ちに沈沒したるを以て乘込める者の大部分は水中に投じ免れたるも韓女二名其の他二三名は下流に押流され行衛不明となれり此報に接したる淸州警察署は直ちに警官を派し搜索せしめたる結果渡船場より約半里の下流に於て男女各一名の死体を發見し檢視の上各洞長に引渡し假埋葬をなさしめたるが其の他の死体は引續き洞民を募りて搜索中也と

●八月の京城氣象
(京城測候所調査)

本月の平均氣壓七百五十三粍四は前月より一粍四の增高を呈し上中旬は割合に靜穩にして僅に一小低氣壓の通過ありしのみ然るに二十二日琉球南部にありし低氣壓は北西に徐行し二十六日上海の南東部に來りて北東に轉じ氣壓の傾度急峻となり每時四十米內外の速度を以て仁川附近より上陸し韓國を橫斷して二十八日北方海に走れり爲めに各地共强烈風に達し豪雨を伴ひ殊に京仁地方は多少の被害を生せり●●氣溫は前月より稍上昇し二十四度三を示し東京の累年平均より一度餘低く房總の沿岸地方と相匹敵せり月中の變化は前月來より引き續き高溫にありては六日高極三十三度六を測り十日頃一時低落せしめ亦十四日上昇して二十二日に至り暴風通過後は頓に朝夕冷氣を催進せり●●風向は西風多く北東風之に次ぎ暴風日數は僅二日にして二十六日午後六時北東より吹きし十二米二八月中の最强なり●●降水量は前月の三分の一に足らず又累年より寡少なりと雖二十五日より二十七日に至る三日間總量百二十二粍は全月の約八割に當れり●●天氣は上旬に晴天多く中旬は晴雨相半し殆んど雨天なりしも月末に至り恢復せり

平均氣壓		七五三、四
氣溫	平均	二四、三
	最高	三三、六 (六日)
	最低	一四、八 (三十一日)
平均溫度		八一
降水量	合計	一六〇、五
	一日最多	四六、五 (二十五日)
蒸發量	(合計)	一五〇、七
日照時數	(百分率)	五四
風	平均速度	二、一
	最多風向	西
天氣日數	雨	一一
	雷	二
	快晴	二
	曇天	九
	暴風	二

(註)降水量、蒸發量は「ミリメートル」氣溫は攝氏、風速度は平均一秒時間「メートル」を以て示す

●夫の跡を追ふ

西部養生坊舘井洞五十五統六戶金淳榮の二男相德は假染の病から大病となり手を盡して療養せしも其甲斐もなく遂に歸らぬ人となりしが其妻洪姓女(十八)は愛しい夫に死別れ悲嘆遣る方なく每日躊々として悩み居るにぞ家内の者も萬一のことありてはと種々と慰めしも慰められず之れが爲め精神に異狀を來し居りし所一昨日正午自宅内房の一室に入り多量の阿片を服し口より多

●畜妾の夢何如ならん

時はまだ夏の眞盛り炒りつくる如き暑さに氷水商賣の氷屋あり此家に老ひたる媼と若き美人あり其艶なる容姿に當世流行の庇髮に髮の遯れ毛を風になぶらせる狀に見惚れて渴かぬ咽をならして態々氷水飮みに來る若者も多かりしと扨て斯る美人が如何にして斯る家に潜み居るかと探り見たる人もありしが此美人といふは某曹長の北の方とかにて曹長は各地方に騷ぎ廻る暴徒とかの鎭壓とて出陣中此家に預けられたるものなりとかさる程に此美人が或る頃より雲隱れして姿を現さゞるより何れ曹長が凱陣して何處へか世帶でも持つたものならんと推量せしに豈計らんや美人は隣りに下宿して居たる某商人と深くなりて二人手を携へて姿を隱し本町郵便局裏手に料理屋を開き御會席酒肴御好み次第と云ふ提灯を吊し世間を憚りながらも先頃まで數多き嫖客を招きしも餘り景氣もよくなかつたと見へ近頃に至り家を疊みて龍山に引越し[illegible]ある家にて二人睦しく樂み居るとのことなるが田舍に出陣中の曹長の畜妾の夢は何處にや迷ふらん

●不幸な車夫

三重縣生れ現住所旭町一丁目山口人力車組合輓子速見乙松(二九)は去月三日渡韓なし前記の處にて暫し稼ぎ居たるが不仕合せにも脚氣にかゝり藥價にも困る收入はなし愈よ困却の餘り度々國許へ通信なし歸國の旨を洩らし送金方を煩はしたるも何の音沙汰なき處より一昨日南部署へ送金すべき樣取計ひ下されたしと願出たり

●佛樣の轉居爭ひ

一昨日午後六時頃掌禮院典司補尹昇求が官命なりと稱し光照門内に鎭座まします支那佛を持ち去らんとするを早くも聞得たる支那警察署にては之はと捨て置けじ抑も無斷に吾が管轄内の物に手を着るとは佛に對しても濟ざる仕打ちなりとて警部一名部長二名巡査三名を派し詰責する所ありしも双方とも官命を奉せる事なればとて互に步を讓るなくヤツサモツサの爭論を惹起したるも之を訴出べき役所は生憎日曜の休みにて如何とも爲し得ざる處より何れ日を更めて解決すべしと引取りたりと云ふ

●同職を擲る

明治町韓印刷合社文撰工李致和(二十)は就業中同社雇人某が來り妨害せし爲め致和との間に一場の爭ひをなしたる末致和は之を職工長に訴へ其是非を判別せんとしたるが某は之れが爲め大に腹を立て其翌六日の夕方致和が同社よりの歸途を待ち受け之を打擲し帽子を破壞したるより致和は某を同行し銅峴分署へ訴出たれば取調べの上損害金若干を賠償せしむることゝなり引下れり

●軒からの爭ひ

銅峴分署管轄沈橋四十五統十二戶朴召史と隣家日本人增田某の二人が一昨日午前十一時同所派出所へ二人同行訴出たるより詰合の巡査之を取調たるに增田の家根の軒が自分の地域を越し居る事より双方論爭を生じ斯くは訴出たる事[illegible]

●夫婦喧嘩

南部美洞統戶不詳酒商祭致玉(五三)妻徐女(四三)の夫婦ものは一昨日午後六時痴情から犬も喰ぬ喧嘩を花を咲かし其筋の捌きを受くることゝし美洞派出所に同行したるに詰合の巡査より散々お目玉を喰つて引下れり

●腸窒扶斯

京城旭町二丁目四十六番戶松井實平方松崎勝造(三十)は五日腸窒扶斯に罹り大韓醫院に送らる

●無錢飮食

岡山縣岡山市桶屋町百二十五番戶現住所不定網島彌作(四十)は一昨日午後十一時本町六丁目五十八番戶花屋事飯田ハツ方にて一圓餘の飮食をなしたるもトンガオプソで南部署へつき出さるとは意地汚き奴なり

●平壤柳屋旅館

林桃藏氏は今回元三根旅館を引受け屋號を柳屋旅館と改め營業せらるゝ由なり

●本日の本町座

白川一座本日の替り狂言は東京本郷座にて大當りを極めたる「花不咲」にて其役割は左の如し

江戶屋半次(田宮)藝妓小粂(今井)おらん(一井)江戶屋半五郞(石卷)下女れ竹(伊藤)幇間馬作(葉山)妹たふじ(堀江)千島禮藏(常盤)粥川團藏(南鄕)遊人長次(中川)母百合子(小泉)興葛飾女(秋山)海彈(秋岡)百姓太助(佐藤)穴堀甚吉(喜多)仲居れ時(島村)石井山三郞(白川)

●取消

拜啓昨日發行の貴社新聞に怪物と題して夜深當寺に婦人忍び來る旨揭載有之由傳聞仕候處右は事實無根に御座候尤も午前二三時頃何事の心願ありてか一婦人當寺に參詣するもの有之是は五月頃より每夜欠かさず參り候樣子に御座候又た婦人の爲す處は夜每當寺境內の杏樹の下に土砂を寄せ且つ是に五六本の線香を手向け時々は赤飯或は菓子等を紙に包みたるまゝ堂の緣の下に投げ込み置く事あれば世間に於て怪物云々の評判あるは同婦人を怪物と誤認したるにはあらずやと相考候若し疑はしく思召されば同時刻御從相成度候同記事中寺所の戶をコトン〳〵と叩きて内に入りたりといふは投書家の付け加へなるべしと相考へ候目下當寺は住職不在なれば役僧の外に公園より男一名每夜泊りに來り留守を致居候次第に御座候間同人に御問合相成候も無實なること相判り申候同記事御揭載あるや僧徒中實否取糺に參りし者も有之候當寺の体面信用に關係致し候間此全文御揭載御取消相成度此段申入れ候也

九月五日 高野山光雲寺留守

京城新聞社御中

●取消

前號の紙上に『果して事實か』と題して揭げし記事中韓人警部と巡査が美洞の妓生惠蘭の家にて亂暴を働きたるは警部と巡査にはあらざる由申込みありたれば該記事は取消す

●天氣豫報
(自七日午後六時至八日午後六時)

東の風後曇

七日午前六時各地氣象概況

東の風吹き中部は快晴其他は槪ね曇天なり

廣告



新聞小說 富本半平の身上(十)

歡々伉――イヤ金作の手掛が切れ界ぃてたので二人共顏を見合せた儘暫時は無言です、なると親船も當にならず餘り大丈夫でもムいませんでしたテッキリ其女中が來るもんと合點をして使をやる前に酒と肴を注文したのですが今となつては其酒も肴も咽喉を通らない第一此勘定をするのに二人共一文無しと來て居るのですから厄介です

實に俺は弱つちまつたが……何とか宜い工夫がありさうなもんだと手前が先づ口を切ると吟中も左樣さ病氣で實家へ歸つて居るといふのお中仕方が無い……せめて其實家でも知れて居りやア驅けつけて往つて何とか算段もして來樣がそれも今使ひがいつた通りの譯で實に手も足も出ない斯なつちやア如何しやうたつて他に宜い工夫も出ないかと又た考へ込んで居ましたがオットある〳〵決して氣を落す可からず急に元氣付いた吟中はバタ〳〵と手をならして女中を呼びつけました

吟中は獨り呑み込みで女中に何か言ひつけた樣でムいましたから手前はヲイ如何したのだと思はず首を差し出すと何でも宜いやな萬事此俺さまの胸にあるのだから默つて居ねヱナと吟中は只もう落付拂つて居るのです其內に二階を登るトン〳〵といふ足音と共に其處に藝妓が現れましたが其女の顏を見ると手前はギヨッとなりました其女といふのは仇名を黑ビールといつて其頃新柳町邊ではチカ〳〵有名な女で――實は手前其以前鳥渡關係をつけた事があるのでムいます夫れを何處をどう知つて居たものか吟中が聘び寄せたのですから手前も驚いたので……ヱナ此りやア暫時……といつた儘吟中と其女の顏を見競べて居ると吟中は姐さん宜く來て下すつた實は半平の野郞めお前さんの事ばかり思ひ續けて居やがつて子稼業もソツチ除けといふ有樣さ其處で今日是非……といつた樣な譯合で俺がお伴なりお仲人なりといふ役廻りで出て來たのだから宜い加減な嘘八百を並べ立てる餘りだと思ふから手前が側から口を出さうとすると吟中は夫れを目顏で押へて一言も手前に口を開かせ無い黑は吟中のいふ事を眞にうけてアラマアソウ……眞正に實がある事ねヱ……妾嬉しいワ……など大悅びソンナ事ならウンと一ツ頭からちやアありませんかとソロ〳〵飮みに掛る此女の酒好と來たら夫りやア大變で手前などが一人や二人掛つた位では當低太刀打ちで覺束無い飮み出したが最後二日でも三日でも……お座敷などは如何でも〳〵になつて醉ひ倒れる迄飮まなけりやア納まら無いといふのですから動かりません

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門通 電話六六三番